した。

これは、平成二十四年度に協議会と南木曽支署の間で「レクリエーションの森」の整備・管理及び活用に関する協定を締結し、阿寺渓谷の美しさを後世に引き継ぐために、阿寺渓谷の景観整備活動を毎年実施しているものです。

今年度は、観光シーズンを迎えるにあたり、協議会と南木曽支署から二十六名が参加し、阿寺渓谷入り口とハナノキ古樹周辺の二班に分かれ、草刈り作業を行いました。

作業中は、好天に恵まれ気温が徐々に上がる中、各々で用意した刈り払い機や鎌で、汗を流しながら、黙々と作業に当たっていました。

阿寺渓谷入口作業の様子

一時間半の予定作業でしたが、皆さん慣れた手付きで作業に当たられ、怪我も無く予定していた時間より早く終了することができました。

美しくなった阿寺渓谷に、今年度も多くの観光客の皆さんが訪れることを期待し、今後も協議会はじめ地元住民の協力を得ながら、阿寺渓谷の保全・管理を進めていくこととしています。

ハナノキ古樹周辺作業の様子

東信地域の小学生を対象に「森林教室」

【東信署】六月十二日、長和町内の和田小学校において、三年生の児童十四名を対象とした「森林教室」を実施しました。

和田小学校は、平成二十年十月から当署管内の国有林において「遊々の森（和田小学校黒耀の森）」の協定を締結しており、今回の「森林教室」も「遊々の森」での森林体験学習を行う予定でした。

しかし、降雨のため、学校内での実施となり、森林のはたらきや「遊々の森」の名称の由来となった黒耀石の観察、動物の足跡や歩き方について学習をした後、校庭において宝物探しを行い、児童と先生方が協力して、隠してある宝物を探し出していました。

児童達が住んでいる地域は緑が豊かで、学び舎も国有林から生産された木材をふんだんに使用した木造校舎であることから、森や木々の話について、大変興味深く聞き入ったり、「学校を作るとき何本の木を使ったの？」「カラマツの木の高さはどのくらい？」など、質問もたくさん出されました。

また、「遊々の森（和田小学校黒耀の森）」についての話を聞いた後、児童の皆さんから「早く黒耀の森に行ってみたい。」「黒耀の森の大きなカラマツの木を見てみたい」との声が聞かれ、森林への関心の高さが見られました。

学校敷地内で宝物探しをする児童

ヒメコマツに四十万円！「職員の造材指導実を結ぶ」

【木曽署】六月二十五日、木曽官材市売協同組合荻原事務所において原木市が開催され、国有林からヒメコマツ、木曽ヒノキ、天然サワラ等など三十三立方㍍を委託出品しました。委託材の目玉商品として、長材で採材したヒメコマツ長級十㍍四㌢、径級五十二㌢（王滝国有林産）と木曽ヒノキ風倒木で長級五㍍、径級五十二㌢（台ケ峰国有林産）に注目が集まりました。気になる出来値は王滝国有林産ヒメコマツが一立方当たり四十万円、木曽ヒノキ風倒木には一立方当たり六十一万九千円の値が付き、良好な結果となりました。

ヒメコマツを落札した岐阜県の業者は、社寺関係の部材（桁）に長材のまま

森林教室の様子

ヒメコマツ長材

使用するため入札されたそうで、長尺大径材のヒメコは希少であることから出材されれば是非購入したかったとのことでした。

また、木曽ヒノキ風倒木は、今から五十五年前に発生した伊勢湾台風の被害木と思われ、白太（辺材）部分が朽ち果て一見使い物にならない印象を受けますが、赤味（心材）がしっかり残っていて、アクや脂が抜けており、さらに乾燥していることから即製品化が可能なため人気のある商品の一つです。

今回出品したヒメコマツは、販売担当職員による山土場での造材指導により採材されたもので、好調な結果に職員も喜んでおり、生産した請負業者も大変驚いた様子でした。

このように造材手に材の価値を最大限引き出そうという意識を持ってもらうことも重要と考えており、今後も、各生産箇所で造材指導を行い、需要にマッチした材を供給できるよう取り組んで参ります。

木曽ヒノキ風倒木

寄稿

かつて木曽ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。

国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

森林鉄道と私の半生

元上松営林署　村仲　徹氏

森林鉄道と私の出会いは、十五歳で王滝営林署・氷ヶ瀬事業所に配属された昭和二十七年に始まります。木曽谷に生まれながら、森林鉄道への乗車は初体験でした。厚板を敷いた台車に、荷物と一緒に乗り込み、不安と恐怖に慄きながら、氷ヶ瀬へと出発しました。途中トンネルの中での耳が破裂するようなエンジンの大音響には驚きました。半世紀も前の事になりますが、今も鮮明に記憶しています。

一年目は氷ヶ瀬から王滝営林署まで、徒歩と森林鉄道の定期便での文書送達の仕事に携わりました。二年目からは小俣の出会所へ仕事の主体が移りました。余暇のランプの下でのマージャンや魚釣りが楽しみでした。里へは盈車（えいしゃ）（積貨車）かトロッコに乗っての下山か徒歩でした。いずれも手ブレーキのため、雨が降ればスリップし、びくびくしながらの下山でした。

三年の勤務の後、助六事業所に配置転換になりました。強く印象に残っていることは、丸太を五段階の高架に組み上げての木橋軌道作設の技術のすごさです。

運材が始まった時の歓声は今でも印象に残っています。森林鉄道は、一度で大量の木材搬出ができるメリットがあり、十両を超す積荷の運材は実に勇壮でした。

昭和三十三年の秋には上松運輸営林署へ配置転換になり、貯木場への貯木、地元での販売、さらには三都（東京・大阪・名古屋）への鉄道輸送と休日交代勤務がある忙しい毎日でした。

昭和四十年代に徐々に森林鉄道からトラック運材へと切り替わり、これを期に私も管内転勤が始まりました。

お陰様で、厳しい仕事の中でも健康で大きな災害にも遭わずに、四十五年余り勤務をすることができ、多くの皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

現在は、時折赤沢自然休養林に家族と出かけています。半世紀でいろいろな変遷がありましたが、いつまでも、美しい自然が守られていくことを願っています。

シリーズ「森林官からの便り」

［飛騨署　夏厩（なつまや）森林事務所］

森林官　鈴木　賢哉

夏厩森林事務所は岐阜県北部の飛騨市古川町に所在し、高山市清見町と飛騨市河合町に広がる約三、五〇〇ヘクタールの森林を管理しています。

当事務所のすぐ横を、「宮川」が雄大

情緒あふれる古川の町並み

に流れており、富山県境までに数々の支川と合流して、「神通川」となり富山湾へと流れています。宮川を挟んで向かい側には、飛騨古川の「古い町並み」が広がっています。町には伝統ある酒蔵が建ち並んでおり、「蓬莱（渡辺酒造）」と「白真弓（蒲酒造）」という地元はもちろん全国でも愛される名酒が造られています。

飛騨古川の地酒（蓬莱と白真弓）

また、四月十九、二十日には日本三大裸祭りに数えられる古川祭の起し太鼓・屋台引き回しが行われ、多くの人々で賑わいます。

私も四月に赴任し初めて古川祭りを見ましたが、屋台の繊細な彫刻や、太鼓の轟音に圧倒されました。また、二十代前半の若者から御年配の方まで、幅広い年代の地元の方がサラシ・フンドシ姿で祭りに参加されていたのも印象に残りました。人間にしても森林にしても、幅広い年齢層がいるというのは様々な利点を産みますし、何よりいろいろな人が一緒になって騒いでいるのが傍目に見ても楽しそうで、それが活気となっているのだと感じました。

古川祭の起し太鼓

さて、山の方に目を向けてみますと、当事務所管轄の森林は、スギ、ヒノキ、カラマツを主体とする造林地が全体の約八割を占めています。国有林全体の人工林率は約四割ですから、人工林の割合がかなり高い地域であると言えます。これら人工林では適期での保育に努めており、公益的機能の発揮を主眼とした山作りが代々なされてきています。今年度は、除伐2類（約七十ヘクタール）や、保育間伐（約七ヘクタール）を請負事業で実行しています。

また、部内の国有林は林道密度が高く、保育間伐した木材を搬出して有効活用する「保育間伐活用型」の事業にも積極的に取り組んでいます。

今後も資源の有効活用が期待できる山であると言えます。

ところで、今年は夏厩管内及びその周辺でマイマイガの幼虫が大量発生しています。

広葉樹の下に車を停めておくと、帰る頃には五十匹以上の幼虫が集っていて、目下の悩みの種となっています。肩の毛虫を素手で払えるほどに慣れてしまったのが良いのか悪いのか……。よく見るとかわいい顔（写真参照）をしているのですが、大量発生した際に草花や樹木の葉を食害するため、マイマイガは世界の侵略的外来種ワースト一〇〇（IUCN、2000）にも指定されています（なお、日本には元から生息していた模様）。

大量発生中のマイマイガ（幼虫）

古川、大谷、夏厩森林事務所の面々（筆者は後列中央）

最後に、当森林事務所は同じ古川町に所在する古川森林事務所、大谷森林事務所と協力しながら業務を進めています。

今後も三事務所が協力し、先輩の指導を受けながら、夏厩の森林官として代々受け継がれてきた山を大切に育て、時に活用し、守っていければと思います。

人のうごき

中部森林管理局人事　六月十九日付

▽育児休業（東濃署主任事務管理官）
（平成二十九年四月二十二日まで）
伊藤章代

七月一日付

▽東濃署主任事務管理官（東濃署森林整備官（森林ふれあい担当））安江清文

行事・会議等の予定

◎愛知県木材団体国有林視察
8月6日　飛騨署管内

◎名古屋市教職員等林業現場見学会
8月21日　段戸国有林ほか

◎木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組管理委員会専門部会
8月22日　木曽署管内

ご当地自慢

付知峡西股谷編 15

東濃森林管理署

岐阜県中津川市北部の長野県境付近に端を発する付知川の上流部は「付知（つけち）峡」と呼ばれ、左に西股谷、右に東股谷と分かれています。この付知峡は、別名「青川」とも呼ばれる渓流と、新緑・紅葉が美しい自然に恵まれ、「森林浴の森日本一〇〇選」「岐阜県の名水五〇選」「飛騨・美濃紅葉三十三選」に選ばれています。今回は、四季折々の楽しみ方ができる西股谷を紹介します。

■勇壮な滝【高樽の滝】

標高八八〇㍍にある「高樽の滝」は、裏木曽の深山から西股谷に落下する落差二一㍍の滝です。森の静けさを打ち破るかのように、ごう音をたてながら勢いよく落下する様はとても勇壮な滝です。滝名は高樽山（標高一、六七二㍍）が水源であることから付けられたようです。滝の上部への立ち入りは危険なため制限されていますが、昔は、豊富な水量をいかして子供たちが滑り台のように水遊びしていたそうです。現在は、森林鉄道で使われていた木橋の上から間近にその姿を楽しむことができます。

高樽の滝

■秘湯の一軒宿【渡合温泉】

付知川の最上流部にひっそりとたたずむ秘湯の一軒宿です。ここには、電気が来ていません。夜はランプの火を灯すことから「ランプの宿」と呼ばれています。

源泉は明治初期に西股谷の谷筋で発見されました。泉質は、アルカリ炭酸泉で胃腸病やリュウマチに効果があるといわれています。冬季は雪が深く営業は四月から十二月までとなっています。川魚や山菜を使った郷土料理が自慢です。

渡合温泉

■御嶽山を望む【高時山】

付知川の源流に位置する山で、「ランプの宿」渡合温泉から、江戸時代に御嶽山に向かう登山道として使われた「木曽越古道」を利用して登ることができます。

この「木曽越古道」は、岐阜県の加子母と長野県の王滝を結び、その歴史は今から九百年ほど前まで遡ります。当時は、御嶽講の行者や信者が頻繁に往来していたそうです。加子母から白巣峠までの間には観音様を刻んだ三十三体の石仏が奉られていました。その途中にある木曽越峠では、ほお杖姿の二体の石仏が、今でも登山者の安全を見守っています。

木曽越峠から、国有林の境界尾根を進めば山頂に到着します。渡合温泉から、約四時間ほどです。高時山の標高は、一、五六二㍍で、山頂からは正面に白巣峠越しに雄大な御嶽山が、御嶽山の左には小秀山、右には夕森山、奥三界山などの裏木曽の山々が望めます。

木曽越峠の石仏

高時山から御嶽山を望む（中央は白巣峠）

◆アクセス（渡合温泉まで）

［公共交通機関］

ＪＲ中央本線中津川駅下車、北恵那交通バス「付知峡・倉屋温泉行」約五十分「付知峡倉屋温泉」から徒歩約三時間「渡合温泉」

［自家用車］

中央自動車道中津川ＩＣ～国道二五七号・二五六号を下呂方面へ「付知峡口」交差点～約四十分～渡合温泉